

第2回東郷町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会議事録〔要旨〕

【開催日時】

平成30年11月29日（木）

開会 午後3時

閉会 午後4時

【開催場所】

役場 2階 第3会議室

【出席委員：11名】

佐野 治 （静岡英和学院大学 人間社会学部 教授）

松宮 朝 （愛知県立大学 教育福祉学部 准教授）

土山 典子 （瀬戸保健所 健康支援課長）

亀井 洋太郎 （東名古屋東郷町医師会 代表）

猿渡 伸司 （愛知県尾張福祉相談センター 次長兼地域福祉課長）

水野 逸馬 （東郷町社会福祉協議会 会長）

近藤 正弘 （東郷町民生委員児童委員協議会 会長）

杉本 久 （障がい者団体連絡会 会長）

笹野 真智子 （社会福祉法人東郷ひなた 理事長）

山下 律子 （NPO法人地域の応援団えがお 代表）

近藤 隆博 （東郷町駐在員会）

【欠席委員：4名】

住田 敦子 （尾張東部成年後見センター センター長）

寺澤 秀治 （東郷町老人クラブ連合会 会長）

井口 真治 （東郷町子ども会育成連絡協議会 会長）

岡澤 京子 （公募委員）

【傍聴者：0名】

【議題】

- (1) アンケート調査について（資料1～資料4）
- (2) 団体ヒアリングについて（資料5～資料7）
- (3) ワークショップについて（資料8）

【会議の概要】

- 1 委員長あいさつ
- 2 議題
- 3 意見交換

4 その他

1 委員長あいさつ

(委員長)

皆様こんにちは。秋も深まり本格的な冬が到来します。この時期になると人口の統計が発表されたり、様々な情報が入ってきます。私が最近気になっていることは、老老介護や認知症の人が認知症の人を介護する認知介護が多くなっていることです。10組に1組が認知介護だと言われており、認知症問題にまったなしの状況です。認知症を治療する新薬が出ると言われていますが、なかなか出てきません。よって家族の負担が大きくなっていきます。かつ、それを地域で支えることが国の大きなテーマになっています。本計画をより良いものに仕上げ、認知症の人が認知症の人を支えることを減らせるような、地域の取り組みについて真剣に考えていければと思っています。本日も委員の皆様より忌憚ないご意見をお願いします。

※このあと、第1回の策定委員会に欠席した委員の自己紹介を行った。

2 議題

(委員長)

では、次第2に入ります。まず、議題(1)～(3)まで全ての説明をしていただき、次第の「3 意見交換」で、皆様からご質問やご意見をお願いしたいと思います。

では、議題「(1) アンケート調査について」、「(2) 団体ヒアリングについて」、「(3) ワークショップについて」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

<資料1～4に基づき、「(1) アンケート調査について」説明>

<資料5～7に基づき「(2) 団体ヒアリングについて」説明>

<資料8に基づき「(3) ワークショップについて」説明>

(事務局)

ただ今、事務局より議題「(1) アンケート調査について」、「(2) 団体ヒアリングについて」、「(3) ワークショップについて」について説明がありました。意見交換ということで、配席表の順で、時間の都合上3分程度でご意見をお願いします。

3 意見交換

(委員)

アンケート調査票と返信用封筒に加え、ワークショップのチラシを同封してはどうですか。

また、ワークショップは2月と3月に開催されるのですが、3月の開催時には調査

結果や課題や好事例があると、イメージが掴みやすいので具体的な提案をいただけるのでは。

（事務局）

3月の開催時にはデータを起こしたものがメインとなりますが、調査結果を出せると効果的だと思うので、前向きに検討させていただきます。

（事務局）

ワークショップのチラシの同封についてですが、本会議の開催前に社会福祉協議会よりチラシを作成して同封したいという相談を受けていました。同封する方向で検討させていただきます。

（委員）

資料2の2ページに「■地域福祉とは？」と説明の文面を入れることによって、地域福祉について知っていただく機会になり、工夫されていると思いました。

資料2の7ページ「問19 あなたは、生活上の悩みや不安を、主に誰（どこ）に相談していますか」とありますが、現時点で悩みを抱えていない人も回答をしやすいような文面にしていただきたいです。

8ページ「問21 あなたは、日々の生活に必要な福祉の情報を誰（どこ）から入手していますか」とありますが、近年はインターネットの普及によりインターネットからの情報を頼りにしている人が多いので、選択肢に「インターネット」を入れてはどうですか。

（委員長）

同感です。是非とも、選択肢に「インターネット」を入れてください。

（事務局）

では、問21の選択肢に「インターネット」を追加します。

（委員）

資料4の「問6 あなたがお住まいの地域では、地域のつながりが強いですか」についてですが、自治会長こそ地域のことを良く知っているので、さらに踏み込んで「なぜ、つながりが強いと思うのか」を聞いたほうが良いと思います。自治会長と住民とでは地域の見方が違うので、踏み込んだ質問のほうが面白いのでは。

ワークショップを最初からひとつの場所だけの開催だと、最初から参加人数が少ないことを見越して記載していると受け止められてしまいます。

ワークショップの案内についてですが、2月開催だとどのように周知を行っていくのですか。案内は広報には載っているのですか。2月開催だと広報1月号を読んだ人

しか集まりません。ワークショップの案内の周知が十分にされていないのでは。

(事務局)

広報1月号に載せる予定です。

(委員)

そのような周知だけで、ワークショップに人が集まるのでしょうか。

(事務局)

第1回の会議では、なぜワークショップを各地区でやらないのかという話もいただきましたが、あらかじめスケジュールが組まれている中で、そこまでの実施となると日程が短く、設定が大変なので、今回はこのような形にさせていただきました。

(委員)

では、ワークショップの回数を増やしてはどうでしょうか。

(事務局)

ワークショップの回数を増やせるかは再検討させていただきます。

(委員長)

検討をしていただき、ありがとうございます。

(委員)

資料2の町民用アンケートについてですが、地区ごとに必要な施策を考えるために、性別や地区ごとのクロス集計をお願いしたいです。

(事務局)

3ページ問1から問6までは自身についての問いとなっています。この基本情報を基にクロス集計を行います。

(委員)

地域福祉計画というと利便的というか代弁的になりがちです。ワークショップやアンケート調査で具体的なニーズを拾い上げて、実効性のある計画にしていきたいです。

(委員)

私は今回が初めての会議参加となります。本計画は社会福祉協議会も一緒につくる計画です。アンケート調査票には、「社会福祉協議会はどのような活動をしている団

体であるのか」また「どうあってほしいか」を聞いていただいています。平成 28 年度の社会福祉法改正に伴い、社会福祉協議会も理事会、協議委員会を大きく見直しました。社会福祉協議会が行っている事業は変わっていないが、事業をやってきたものを、地域の中で一つずつ見直す機会だと思っています。アンケート調査の結果をどのように反映できるのか期待をしています。

資料 2 の 8 ページ「問 22 あなたは、区・自治会などのご近所の地域活動に参加していますか」、「問 22-2『3 あまり参加したことがない』または『4 まったく参加したことがない』を選ばれた方にお聞きします」の選択肢に「団体の役員をやりたくない」を追加していただきたいです。この意見は町民より多く聞いており、役員が回ってきたタイミングで会を抜ける人もいると聞きました。社会福祉協議会だけではなく自治会でも同じような話を聞きます。

(事務局)

選択肢に「団体の役員をやりたくない」を加えます。

(委員)

私は、第 1 回目の会議を欠席したので本日が初めての参加になり、資料に目を通した感想は、全体的に漠然としていたと感じました。アンケート調査を実施することは良いですが、簡単な設問だと何も考えずに丸印をつけてしまうのではないかと。統計は取れると思いますが、細かいことは把握できないのではと思いました。

基本的には、元気なうちは世話をしたくない・世話をされたくないと思っています。諸輪地区でもシニアクラブ、JA のさわやかさん、憩いの会を葬儀場の会場で毎月 1 回行っていますが、いずれも参加者は同じ顔触れです。福祉は、自分が世話になる立場になって初めて理解していただけることかもしれません。福祉は、ボランティアや地域住民が主体となることを謳うのは、現実には難しいと思います。まず、行政がしっかりして、その中で手伝うということが大切だと思います。

諸輪地区は、昔から住居している人の旧地区は中央にあり、それを囲うように新しい住宅が建っています。現在の比率は、6 : 4 で新しい人の方が多くなりましたが、回覧板を通して地域のみとまりは地区により随分違います。実際はよくわからないのが現状です。

(委員長)

地区の特性は興味深いですね。

(委員)

7 ページ問 19 の選択肢に「地域包括支援センター」や「障がい者相談支援センター」とありますが、町民は場所を知っているのでしょうか。

また、場所や施設を知らない人のためにアンケートと一緒にチラシを同封してはど

うですか。

ワークショップについてですが、参加したい人に来ていただく形式ですか。

(事務局)

そうです。

(委員)

第1回目のワークショップの内容は、5年後の理想を書くようですが、曖昧ではないでしょうか。5年後だと期間が短いと思います。行政が求める意見は、まず出てこないと思います。まずは、嫌だと思っていること、困っていること、地域の問題を出してもらい、解決策を考えていくことから始めても良いのではないのでしょうか。理想からスタートすると、概念的になり具体化しづらくなります。地域の中で回数を増やし、地域の問題は一体何なのかをワークショップの1回目にしていただき、それに対してどうすれば良いかを2回目に持ってきてもらえると、具体的な計画になっていくと思います。

(委員長)

確かに、5年後の理想だと抽象的になりやすいかもしれませんね。地域の意見を拾っていきたいですね。

(委員)

一般の方が「地域福祉」と聞いて何を想像するのが難しいのでは。障がい者が対象者として上がってくるかを危惧しています。意識改革をしていかないと、地域福祉は進んでいかないと思います。最初の「地域福祉」の説明の中に、日本全体がこのような方向に向いている、または、東郷町はこのような形に向かっていきたい等を先に提示した方が、意識改革に繋がりアンケートに回答する意識が変わり結果も変わってくるのではと思っています。

障がい者というと、身体障がいしか思い浮かばない人が多いので、「障がい者」についてもう少し丁寧な説明があると良いです。

資料2の5ページ問11の選択肢「9 子どもや高齢者、障がい者に対する虐待防止への支援が少ない」とありますが、「虐待防止」とは何かを理解するのは難しいと思います。

8ページ「問20 あなたは、日々の生活に必要な福祉の情報が得られていますか」とありますが、「福祉」が漠然としすぎているので、もう少し具体的に「東郷町はこの先、地域福祉を発展させていくためには、地域福祉は何を目指しているのか」を具体的に載せた方が良いと思います。

自治会へのアンケートの中で、高齢者や障がい者は災害時に支援を必要としています。先日の防災訓練でも、地域の人や自治会は、障がい者に声をかけていない気がし

ます。アンケート全体をどうしたいか心配しています。地域福祉は実際には生きていくのに自分たちで助け合ったり、高齢者の過疎地では自家用車を出して送迎を行っています。啓発できるような案内があれば、より身近になり、こういうことをするんだということがわかるのかなと思いました。

(委員長)

アンケートの設問には、曖昧な言葉や専門用語は使用しないことが原則となっています。用語がわからないと回答のしようがないので、そのような場合には「どちらでもない」に丸を付ける傾向があります。それを避けるために、設問に解説を加える等、工夫していただきたいです。

(委員)

本計画を作成するに当たり、キーワードとして「地域共生社会」が謳われています。町民に示してどのように伝わるのかは危惧しています。最終的な形が想像つきません。

私は、障がい者団体連絡会の代表を務めています。障がい者手帳は、知的障がい・精神障がい・身体障がいの3つに分類されます。また、身体障がいの中でも、聴覚、視覚等、細分化されています。一人一人要求することが違うので、対応が非常に難しいと感じています。

資料7の地域福祉に関する団体ヒアリングシートの中に、障がい関係の3団体が入っていますので、どのようなものかを聞いてみないといけないと思います。何を質問して良いのか、3つの団体でも非常に苦勞されているのが実感です。地域共生社会と言ったときに、障がいを持った者がどうあってほしいのか聞けるといいなと思います。この調査票で、住民の意見が形づくられていくのならば良いと思います。

(委員)

私は、民生委員を務めています。民生委員にもアンケート調査があり、民生委員の役割を知っていただくいい機会になると思っています。民生委員は仕事の幅が広いので、一つにまとめることは非常に難しいです。民生委員のアンケートに目を通しましたが、真剣に回答をすると2～3日かかると思いました。もっと深い設問があっても良かったです。

例えば、資料3の3ページ「問5 民生委員・児童委員の活動をする中で困ったとき、誰に（どこに）相談していますか」との設問があるのですが、違う聞き方があると思います。「民生委員をしていて、民生委員として何をやりたいと思っているか」具体的に悩みや何をしたいのかを答えとして出せるような設問があると良いと思います。

民生委員は、訪問活動を主体的に行っており、困りごとに関する質問を受けたときに、どこに相談したら良いのか一覧表を作成中ですので、来月の定例会には皆様にお渡しできると思います。お渡したものを皆で確認をし、1月には完成したものを皆様

に配布する予定となっています。

アンケートでは、なるべく具体的な回答をいただけるような設問にしてほしいです。民生委員は、地域の組織には組み込まれていません。地域の団体とのつながりはあまりないです。地域とのつながりをもっと良くするために、本年度8月から地区長を設けました。「もし、問題やわからないことがあれば、地区長に相談してください」「各地域でも、民生委員に問題があったら、地区長に言っていただき、民生委員同士が話し合います」というような体制をつくりました。

民生委員のアンケート用紙は、1月の定例会で配布して、回収は返信用封筒で送っていただくということで、本日の役員会で話をしました。自治会長や地区の人も月に1度は会議があるので、そこで調査票を配布しても良いのでは。

(事務局)

自治会長が集まる会議は、次回が開催が2月に予定されているため、タイミングが合いません。

(委員)

自治会長たちにも会議でアンケート調査の説明をした方が良いのでは。

(事務局)

先日の会議で、調査協力をお願いをさせていただきました。

(委員)

アンケート調査は2,000人を対象としているようですが、内訳はどのようになっていますか。

(事務局)

本年度は他の計画の関係でアンケート調査を実施することが多く、そこ対象者が被らないように注意を払います。年代ごとに回答率が異なり、若い世代の方は回答率が悪いので、そのあたりを考慮しながら、すべての年代から平等な回答率を得られるような配率で対象者を抽出したいと考えています。

(委員)

アンケート調査票には無作為抽出と記載されているので気になりました。

(事務局)

そのあたりは考慮しながら対象者を絞っていきます。

(委員)

一般的な回収率は何%くらいですか。

(事務局)

平均は 30～40% くらいの回収率です。

(委員)

社会福祉にどのようなことを期待しているかは、若い人と高齢者では期待することが違うと思います。そこを把握して若い人と高齢者とで社会福祉でやることは違うと思う。それは整理しないと意味がない。考えて無作為抽出をしていただきたいです。

ヒアリングは、どのようなことを聞くのですか。民生委員は、役員と各部長に参加してもらおうという話でしたが、役員としては、会長 1 名と副会長が 3 名、会計 1 名です。あと、部会を PR させていただきますと、民生委員の中には、生活福祉部会、高齢者福祉部会、児童福祉部会、障がい者福祉部会の 4 つの部会に分かれて、それぞれの部会の中で活動しています。

ワークショップについて、民生委員は 50 名います。2 つに分けると 25 名ずつ。どのように人を集めるのですか。それともお任せですか。

(事務局)

基本は一般公募となります。集まらなかった場合については、声掛けをさせていただきます。

(委員)

各小学校で 10 名～15 名と書いてありますが、民生委員だけで 25 名ほどいるので、詳細が決まり次第、具体的に教えてください。

(事務局)

各会場とも各小学校区 10 名～15 名を対象としています。3 小学校区があるので最大 45 名となります。ワークショップの参加者が全て民生委員になることはありません。都合のつく民生委員には、ぜひとも参加していただきたいです。

(事務局)

細かくなったとしても、民生委員の区切りも細かくなってくるので、比率的にはそんなに変わらないと思います。

(委員長)

委員全員のご意見をいただきました。全体を通してご意見や感想はありますか。

(委員)

アンケート調査の回収率が半分以下ということでしたが、「福祉」や「地域活動」に興味がないと回答していただけません。興味がある人の意見しか集まらず、偏った意見になるのではないかと懸念しています。

(事務局)

おっしゃるとおりです。興味がない人にも回答していただくことは難しいことです。今回のアンケート調査は、福祉に興味がなくとも困っていることがある人の実態を、間接的に聞くような恰好になるのだと想定しています。今後は、ホームページや広報で周知徹底を図り、行政も社会福祉協議会もお互いに取り組んでいくことが課題です。

(委員)

アンケートの主旨をお尋ねしたいのですが、アンケートを見ていると「連携していますか」という設問が多いのですが、これは何を得ようとしているのですか。

(事務局)

今の活動をしている中で、連携することによって活動の幅が広がり、今までできなかったことができるようになるきっかけを探っています。

また、何が不足しているかを把握することにより、それに対して行政が支援できることがないだろうかというニーズを探ることができればと考えています。

(委員)

では、「連携していない」と回答をしたときは、行政は連携の提案をするのですか。

(事務局)

そこまではしません。

(委員)

それならば、違う質問の仕方にした方が良いでしょう。では、連携しているかを問うだけで終わるのですよね。地域福祉を進めていく上で、連携はその後のことであり、まずは意識改革が必要です。それまで、町を盛り立てていかなければならないよということをしてほしいからアンケートなのですよね。そのような内容のアンケートを作成することはできますか。

興味がない人はアンケートに回答しないし、設問の意味がわからないと思います。それだと形だけのアンケートになってしまいます。

(委員)

若い人から多めにサンプルを取り、回収率を上げたほうが良いと思います。委員よりご指摘いただいたとおりだと思います。調査をすることは大事なことのですが、

地域の福祉の活動を知ってもらうことも重要だと思います。意識啓発をすることも重要です。

ワークショップのお知らせもありますが、簡単な案内や現在やっていること、関連があるということを知ってもらい、ワークショップに参加するという流れをつくるような調査であるべきだと思います。データを取るだけのアンケート調査だともったいないです。東郷町でこのような計画策定に取り組んでいるということを知ってもらうためのものを、社協と行政で作成し同封すると良いのでは。このアンケートに内容を入れ込むよりも、別で作成したものを同封した方が手元に残るので良いのではないのでしょうか。

(委員)

3 ページ以降を回答用紙にして切り取れるようにすれば、1 ページと 2 ページの説明文は手元に残ることになります。

資料 2 の 11 ページ「問 30 地域福祉を推進するために、何が必要だと思いますか」の選択肢 7 に「地区社会福祉協議会※」とあり下部に説明が記載されているのですが、「東郷町社会福祉協議会」と「地区社会福祉協議会」の違いは、町民には理解することが難しいと思います。「地区福祉協議会」のほうがわかりやすいのでは。

(委員)

地区社会福祉協議会をつくる予定があるのですか。

(事務局)

本計画を検討していく中で、地区社会福祉協議会が必要ということであれば、それに向けて進めていくことになります。

(委員)

問 30 の中に入っている意味がわからないので、この選択肢は誰も選ばないと思います。

(委員長)

では、地区社会福祉協議会について、もう少し詳細な説明を加えてください。

(委員)

各地区に地区社会福祉協議会はあるのですか。

(委員)

東郷町には地区社会福祉協議会はないので、町民は評価することができません。

(委員)

ワークショップに参加できる人数は決まっているのですか。

(事務局)

先ほど示した人数は目安であり、人数を超えても参加することができます。

(委員)

10名～15名と限定しているのは、最初から参加者が集まらないと見込んで人数を設定しているのですか。これだけ様々な対象者が記載されているので、それぞれ1名ずつ出れば10名になるのでは。また、アンケートは答えありきでつくっているような感じを受けました。

(事務局)

それはいいです。東郷町を知りたいと思い作成しています。東郷町では初めての計画であり、初めてのアンケート調査です。いろいろ聞きたいところもあるし、設問が多くなってはいけないというジレンマを抱えて作成しています。

(委員)

ワークショップは、第1回目から大きい区域でやるのは、ワークショップの主旨に反している気がします。東郷町として考えていきたいというのであれば、ワークショップは、最初は小さい区域から始めるのが良いのではないのでしょうか。

(事務局)

自治会単位での開催は今のところ無理です。地域の近いところでやるのか、分散して開催するのかは検討します。最初の説明で申し上げましたように、各小学校を会場にして開催するとなりますと、校舎か体育館が候補となりますが、校舎は休日の開放をしておらず、体育館は冬なので寒く適さないと考えています。他に適切な場所があれば、選択肢として考え直すということもあります。この件については、一度持ち帰らせていただきます。

(委員長)

では、事務局は持ち帰りをしていただき検討をお願いします。

(委員長)

若い人の回収率を上げるために、成人式を行う時期にワークショップの周知やチラシ配布、または、アンケートを実施してはどうですか。

(事務局)

時期的にはピッタリなので、できたらそのように実施したいです。

(委員長)

この地域福祉計画のアンケート調査は、単なる意識調査ではなく、アンケートに回答すること自体が住民参加であり、かつ周知、広報、啓発の意味合いが入ってきています。通常のアンケート調査とは違うんだということを国が言っているのです、反映していただければと思います。また、ワークショップはなるべく小さな単位でと意見があったので、ご検討ください。

(委員)

先日、タウンミーティングに参加しましたが、参加人数は10名ほどでした。

(事務局)

10名ではなく、もう少し多く参加していただきました。

(委員)

来る人はだいたい高齢者です。

(事務局)

確かに参加者は高齢者が多いです。6地区で300名弱でした。平均すると40～50人の参加ということになります。

(委員)

社会福祉が一番大切なことなので、若い人も高齢者も地域を良くしようという盛り上がりをつくってもらわないといけません。

(委員長)

他にご意見はありませんか。本日は委員の皆様より貴重なご意見をいただきました。以上で本日の議題はこれで終了となります。スムーズな議事進行にご協力いただきありがとうございました。事務局にお返しします。

4 その他

(事務局)

次回の策定委員会は、来年5月に開催予定です。

新たな年度になると、役員の交代や異動もありますので、こちらにつきましては改めてご確認させていただきます。

閉 会